

J I S A 5 2 0 9 陶磁器質タイルの改正について

1. はじめに

平成 20 年 3 月 20 日付けで陶磁器質タイルの JIS が改正されました。この前の改正は 1994 年の事ですから、実に 14 年振りの改正となります。今回の改正は従来の改正に比べて大変大幅な改正となっています。その理由是对應する国際規格 (ISO) との整合化と、旧 JIS (A 5209:1994) の解説に記載されていた懸案事項への対応を行ったことによります。まず、規格票の様式が変わり、旧 JIS では製品規格と試験法規格が含まれていましたが、今回の改正で JIS A 5209 は製品規格になり、試験法規格は JIS A 1509-1 ~ 13 として新たに制定されました。次に試験法規格の改正内容についてですが、国際規格への整合化による改正と旧 JIS の懸案事項へ対応するための改正に分けて紹介します。

2. 国際規格との整合

試験法規格と国際規格の技術的な内容との整合の程度を JIS A 5209 解説から引用し、一部書き換えて次の表に示します。

3. 旧 JIS の懸案事項へ対応

旧 JIS の解説に記載されていた懸案事項への対応を次に示します。

「反り及びばちの基準、長さ及び幅の許容差、並びに厚さの許容差を 80% 程度に圧縮する件」については全て採用されました。「耐摩耗性のための試験方法を検討する件」について

は、施ゆうタイルと無ゆうタイルに分けてそれぞれ新しい試験方法が採用されました。「耐凍害性試験に JIS A 1435 に規定する試験方法を導入する件」については、気中凍結気中融解法及び気中凍結水中融解法が導入され、回数は国際規格と同じ 100 回とされました。「耐薬品性を規格化する件」については、国際規格に合わせて評価基準とクラス分類が規格化されました。「耐滑り性を規定化する件」については、床タイルの重要な品質特性として規定化が望まれています。今回の改正では規格化はされましたが判断基準値を規定してはいません。「耐汚染性を規定化する件」については今回は JIS 化されませんでした。

今回の改正で試験方法が見直された試験規格による試験結果は、旧 JIS による試験結果との間で直接比較することが困難です。例を示しますと、吸水率は今回の改正で強制吸水率を採用しているために素地の粗密を評価するのに適した試験規格になっていますが、旧 JIS では自然吸水率を測定してタイルの素地を分類し耐凍害性の目安としても利用されてきました。これに関しては新たに「吸水率の区分」が規定化され、また耐凍害性については耐凍害試験で評価することになりました。今回の改正は大幅な改正となっていますので従来の概念と異なることもあり、誤解や混乱を起こさないためにも新試験規格への注意が必要です。

表 試験方法規格についての JIS と国際規格との整合化の程度

国際規格のとの整合化の程度	新 JIS の試験方法規格の名称
国際規格の方法をほぼそのままの内容で JIS とした試験方法規格	吸水率・見掛け気孔率及びかさ密度の測定方法 曲げ破壊荷重及び曲げ強度の測定方法 無ゆう床タイルの耐摩耗性試験方法 施ゆう床タイルの耐摩耗性試験方法 施ゆうタイルから溶出する鉛及びカドミウムの定量方法
国際規格の方法を参考に内容の一部を変更して JIS とした試験方法規格	抜き取り検査と合格判定基準 表面品質・寸法及びばち・反り及び直角性・裏あしの形状及び高さ・役物の角度の測定方法 耐薬品性試験方法 施ゆうタイルの耐貫入性試験方法
国際規格の方法ではなく、他の JIS で制定されている方法を参考にして JIS とした試験方法規格	耐熱衝撃性試験方法 耐凍害性試験方法
国際規格の方法にはないが、今回 JIS として制定した試験方法規格	耐滑り性試験方法 ユニットタイルの品質特性の測定方法



常滑窯業技術センター 応用技術室 光松正人 (0569-35-5151)

研究テーマ：省エネルギー貢献型遮熱建材の開発

担当分野：セラミックス